

静中静高 関東同窓会 会報

記念応援歌にフォーカス。150周年へ繋ぐ



7月6日(土) 東京・日比谷の本プレスセンター10階ホールにおいて第49回静中静高関東同窓会総会・懇親会が開催されました。来賓を含め138名の方々にご参加いただき、誠にありがとうございました。今年度は、昨年度まで実施していたWeb配信をやめ、以前と同様の総会・講演会・懇親会の3点セットによりやく戻ることができました。

総会の冒頭、杉山順一会長(84期)が挨拶に立ち、同窓生・幹事期・理事への感謝の言葉と、来年度は50回の節目の総会になること、また現在の関東同窓会の様々な取組みが紹介されました。ご来賓として、母校より織田敦校長、進路指導課・久保田好則先生(110期)、静中静高同窓会・松村友吉会長(88期)、中部支部・加藤政幸支部長(91期)、そして静高野球部後援会より河村卓利会長(96期)の5名をお迎えしました。織田校長より、在校生の学校生活・活躍の様子や、4年後に創立150周年を迎える母校のこれまでの歩みを先生方の熱意で編纂された学校案内の紹介など興味深いお話がありました。

想いを企画に

101期関東代表 大石智子

野球部紹介では、静高野球部後援会の河村卓利会長が、老朽化していた野球場員移動用のバスをクラウドファンディングにより新車で購入できたご報告や、今年のチーム・メンバーの紹介をしてくださいました。

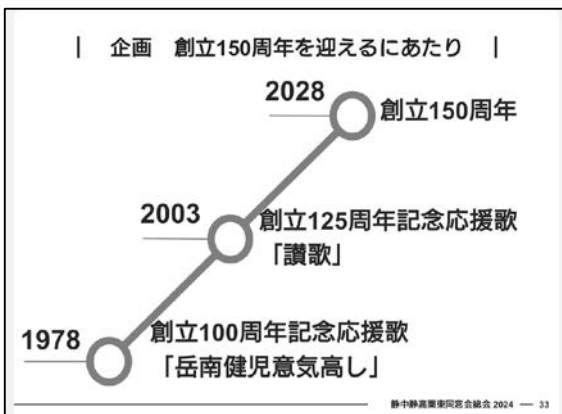
続いて、日本司法書士会連合会会長の小澤吉徳氏(101期)より『相続登記の申請義務化』をテーマに講演を行いました。4月から施行された法務省管轄の新制度について、大変わかりやすく話され、質問タイムでは静岡市内の具体的な地名が飛び交い、その後の懇親会でも、小澤氏は個々の相談に引張りだこの様子でした。多くの方が身近な問題と認識しているタイムリーなテーマで、大変好評をいただく講演となりました。

懇親会は、同じホールで行うため総会時の形式からのレイアウト変更が必要でしたが、昨年同様、ご参加の皆様がお手伝い下さり、スムーズに立食パーティー形式へと転換できました。皆様のご協力に感謝いたします。

松村同窓会会長の乾杯ご発声で懇親会が始まると、会場にはいくつもの談話の輪ができ、再会のひと時を楽しまれている様子が見られました。今年度の幹事期企画として、創立100周年記念応援歌と創立125周年記念応援歌のそれぞれの紹介と、佐藤友男氏(102期)

の応援指揮による斉唱を行いました。この2つの応援歌が実はあまり知られておらず、せっかくの記念応援歌にもっと光を当てたい思いでの企画でしたが、2つの歌の関係者が関東と同期にいたからこそ実現したものでありました。

創立100周年記念応援歌『岳南健児意気高し』では、作曲家・大澤理氏(96期)より、応募から採用に関わったこと、一部曲を書き直したことなどお話しいただきました。また、創立125周年記念応援歌『讃歌』では、発起人である恒光隆法氏(100期)から、当時、廃部の危機にあった応援指導部を、(次頁へつづく)



目次

2頁	記念歌エピソード	3頁	講演後記 小澤吉徳(101期)
4頁	総会アルバム	5頁	5頁
7頁	8頁	母校キャリアデザインツアーレポート	
9頁	11頁	エッセイ集「静高後輩へ」若桜木虔(89期)・「脱サラ11年のモノローグ(中)」成岡和美(86期)・「文学・芸術愛好家の楽園」清水篤(92期)・「標の星に、手を伸ばせ。」上村里奈(118期)・「終わりをければ」浦田彰(71期)	
12頁	Save Iwate「震災の備えは大丈夫ですか」日下淳(92期)		
13頁	岳南球友会 松永啓(94期)	14頁	新春のついで案内

何とかしたい思いで、企画を持ち込んだこと、作詞者の長嶋勲氏(101期)からは、様々な場面に通用する本当の意味での応援歌になるように作詞したことをお話しただきました。これを機に、2つの応援歌も歌い継がれていくことを願っております。

最後は、清水正章氏(102期)、長嶋勲氏(101期)の指揮により、希望の歌、逍遙歌、校歌を声高らかに歌い、大いに盛り上がりお開きとなりました。

私達101期は、先輩達の熱意はそのままにバトンを受け継ぎ、「幅広い世代の交流」を願いながら準備をまいりました。71期から132期までの幅広い世代の同窓生が集い、世代を超えて笑顔をつみかみし、感慨深いものがありました。そして、無事に来年度第50回総会の主幹事となる102期にバトンを渡すことができました。これは、理事・役員、同期の仲間ほか各位のご協力のお陰です。ここにあらためて深謝申し上げます。来年も盛会となることを祈念するとともに、人と人との縁を繋ぐ関東同窓会の益々の発展を願っております。

当日の企画紹介

100周年記念応援歌 『岳南健児意気高し』 作曲者エピソード

大澤 理(96期)

1978(昭和53)年春に歌詞の募集が行われ、長田雅孝氏(95期)

の歌詞に決定。続いて曲の応募が始まると30曲近くが集まったことでした。同窓会の選考委員会で、私の作曲を聴いた当時の吹奏楽部顧問の大川先生から「腕に鋼鉄の強さ持ち」のメロディがある一部メロディ『燃えよ若人』とそっくりだ」と指摘があり、それはいけないとその部分を修正することになりました。そして最後の2曲に絞られ、最終決定は作曲家である成田勝之氏(82期)に託されました。成田氏は、私の作った曲を100周年記念応援歌として決定し、さらにかっこいい前奏も付いたアレンジもしてくださいました。どうぞ皆さん、一緒に歌ってください。



弦楽部所属の大澤氏。軽い気持ちで応募したが、盗作疑惑を指摘され...

岳南健児意気高し

作詞 長田雅孝(95期)
作曲 大澤 理(96期)

一朝日に輝く 印高の

栄光胸に 立つ我ら
腕に鋼鉄の 強さ持ち

いざ闘わん この闘志
岳南健児の意気高し

二 朝風清き 学舎の

伝統の意気 示さんと
熱血の雄 今ここに

いざ闘わん この雄姿
岳南健児の意気高し

125周年記念応援歌 『讚歌』
作詞者エピソード

長嶋 勲(101期)

中学2年以來、作家である村松友視氏(75期)に傾倒していました。今も母校では続いている静岡市民文化会館での教育講演会で、41年前、村松友視氏が講演をしてくださいました。後日発行された印高新聞には、当時現役2年生16歳の自分が写っています。



6月2日 市民文化会館にて新聞部、一般生徒がアタック! 村松友視 インタビュー

1983(昭和58)年、母校主催の教育講演会では、村松友視氏による講演が行われ、終了後のインタビューに参加した長嶋氏は、今でも大切に新聞記事を保管している。

今もよく歌われている応援歌「希望の歌」は村松友視氏の叔父

にあたる村松喬氏(50期)が作詞しています。2002(平成14)年、「希望の歌」の流れを汲む新しい静高の歌を、自分の憧れの方、村松友視氏ご本人が審査されると知った時、「こりゃあもう応募しないとしょうないじゃん!」と奮起したのが作詞の動機です。



「静高の歌」歌詞選考委員会 平成14年7月22日

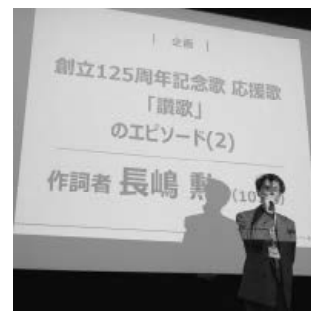
村松友視氏(作家)、三木卓氏(作家)、山川静夫氏(アナウンサー)ほか著名人たちが選考委員となり、約50の応募作品を審査し最終決定をした直後の写真。写真提供は、同年の節目に新しい静高の歌を作る企画を同窓会へ提案した100期・恒光隆法氏(左端)

人生のいろいろな場面にも通用する本当の意味での応援歌になるようにとの想いで作り出した。先日、母校の教員の方とお話する機会がありました。この記念歌については生徒たちの間ではその存在すら知られていないと伺いました。今後は、皆さんの

お力で、いろいろな場面での歌を伝承していただければ嬉しく思います。

讚歌

作詞 長嶋勲(101期)
作曲 川辺真(84期)



101期応援指導部団長の長嶋氏。しかし、応募の真の狙いは...

一 今それぞれの 太陽が
遙かに 解き放つ 千の光
空を駆け 富士を越え
萌える瞳は 真直に
照らし出す 立ち向かうべきを

静高 静高 静高
輝き熱く 限りなく
静高 静高 静高
真の勇氣に 奮い立て

二 今 大いなる 伝統を
育み 解き放つ 千の力
いくつもの 海を越え
深い鼓動は 果てしなく
鳴り響く 普通の活路に

静高 静高 静高
かけがえのない 風受けて
静高 静高 静高
真の自由よ 降りそそげ
静高 静高 静高
闘いの意味 寛く知る
静高 静高 静高
真の勝利に 讚えあれ

講演後記

101期 小澤 吉徳



私が限られた時間の中でお伝えしなかった点は、さほど多くありません。

まずは、本年4月1日より相続登記の申請が義務化になったという点、具体的には、不動産を取得した相続人に対し、その取得を知った日から3年以内の申請を義務付けた、ということ。そして留意すべきは、施行日前の相続でも、未登記であれば、義務化の対象（3年間の猶予期間あり）になります、ということ。

費用の点も含めまして、相続登記のご相談は司法書士へお寄せください。日本司法書士会連合会では、平日10時から16時まで、無料にて電話相談をお受けしております。

日本司法書士会連合会
フリーダイヤル
0120・133・7832
(いさんの なやみに)
<https://www.shiho-shoshior.jp/>

また、左記特設サイトもご覧いただけます。

「しほサーチ」
<https://souzokushino-shoshior.jp/>

まずもって、設営に携わっていただいた、同期の皆様の全員に対して、この場をお借りして心から感謝申し上げます。おかげさまで、本当に気持ちよくお話ができました。これは偏に同期の皆様による入念な準備によるものでした。皆様、お忙しい中で貴重な時間を割いていただきました。

これまで、不義理であった私に、講演依頼のお声がけをいただきましたのは、社会的課題である空き家・所有者不明土地問題の解決のための施策としての「相続登記の申請義務化」の施行が近づいてきたタイミングだったからだと思います。

私にとっては、このタイミングで、同窓生の皆様にお話をさせていただくという、本当にありがたい機会を頂戴することができました。これまで「任意」であった相続登記が「義務」に転換されるという変革。そして、相続というのは、誰もが経験することで、決して他人事ではない問題であります。

そして、「正当な理由」がないのに申請を怠ったときは、10万円以下の過料の適用対象になります。また、正当な事由は幅広く認められていた点でも、お伝えしておきたい点でした。具体的には、①数次相続が発生して相続人が極めて多数に上り、かつ、戸籍関係書類等の収集や他の相続人の把握等に多くの時間を要する場合、②遺言の有効性等が争われている場合、③重病等である場合、④DV被害者等である場合、⑤経済的に困窮している場合などは「正当な理由」ありと判断されるものと思います。

一方、皆様の大きな関心事は、司法書士に依頼した場合の費用だと思えます。実際に費用に関する質問もいただきました。ただ、司法書士の報酬は自由化されており、事務所によって異なりますので、一概にこの程度ということが申し上げられません。しっかりと最初の相談の際に、確認をしたうえで依頼をするようにしてください。

費用の点も含めまして、相続登記のご相談は司法書士へお寄せください。日本司法書士会連合会では、平日10時から16時まで、無料にて電話相談をお受けしております。

日本司法書士会連合会
フリーダイヤル
0120・133・7832
(いさんの なやみに)
<https://www.shiho-shoshior.jp/>

また、左記特設サイトもご覧いただけます。

「しほサーチ」
<https://souzokushino-shoshior.jp/>

【会場での質疑(抜粋)】

Q 農地は今後法律的にどのような扱いになっていくのか。周囲も放棄地ばかりである。

A 農地の問題は悩ましい問題であるが、農地も同様に相続登記は行わなければならない。なお、一定の要件を満たせば国に引き取ってもらえる相続土地国庫帰属制度があり、すでに施行されている。法務局へのご相談を検討いただくのも一案である。

Q 市街地で木が茂り放題で毎日掃除しても追いつかない状況になった場合に、当該不動産を正常に相続した現所有者に対し、自治会として対処を依頼することはできるのか。役所にはまだ相談していない。

A 特定空家に分類されれば、役所がある程度介入できるので、まずは役所に相談するのがよいと思う。なお、特定空家とは、以下の状態にある空家等をいう。①倒壊等著しく保安上危険となるおそれのある状態②著しく衛生上有害となるおそれのある状態③適切な管理が行われないことにより著しく景観を損なっている状態④その他周辺の生活環境の保全を図るために放置することが不適切である状態

Q 相続の対象者が地方各地に散らばっていて、手続きの困難に直面した。このようなケースにつき、ITでうまく行くよう検討していたりするの。またはうまい手があれば教えて頂きたい。

A 現在は紙の遺産分割協議書を作り、印鑑証明も紙で、郵送である。将来的には司法書士が電子文書として遺産分割協議書を作り、それに相続人がスマホでマイナンバーカードを使って電子署名ができれば、相続人が遠隔地に散らばっていても効率的に手続きができるので、それを目指して検討中の段階である。

Q 司法書士と弁護士はどのような分担になるのか。

A この件で言えば、司法書士は、当事者間で遺産分割協議ができている場合、紛争にまでなっていない場合に、法的な助言をしながら遺産分割協議を支援する促進役である。一方弁護士は、紛争が顕在化した場合、相続人の代理人として相続人の間の協議に介入するものである。

Q 知人に空家問題に取り組んでいる行政書士がいる。誰に相談すればよいのか。

A 立場上は、司法書士にご相談を、と答えるしかないが(会場笑)、それぞれの資格の方が相続手続について専門性があるので、最初の相談は、弁護士・行政書士・司法書士・税理士のいずれでもよいと思う。

第49回 総会議事報告

【一号議案】規約改正
総会・理事会・正副会長会の並び順や、各期幹事を役員定義から外し、委員会と同様にその他活動として定義するなど、実態に合わせた改定内容の説明を行いました。

【二号議案】
2023年度の各委員会活動報告や、年会費の収入が大幅に下回り25万円ほど繰入れを行った会計報告を行いました。またその会計について適正に処理されている旨の監査報告を行いました。

【三号議案】
2024年度の事業計画案・収支予算案の説明を行いました。

以上全議案につき、賛成多数により可決承認されました。ご理解ご協力をいただき、ありがとうございました。



母校の様子を話して下さった織田校長先生



代わりのきかない司会者と司令塔



男性&女性、主幹事&副幹事ミックスの受付体制



河村野球部後援会会長から近況報告



議長・杉山会長と進行・栗原副会長で議事進行



拍手を以って賛成多数の議案承認



松村同窓会会長による乾杯



幹事期も肩の荷おろして一緒に懇親するのが関東流



各期が入り混じっての交流



大役、お疲れさまでした



業種、世代を超えた交流

異業種交流会

次回、第35回は2月開催

6月14日(金)日本プレスセンターにて第34回異業種交流会が開催され、33名が参加しました。今回は、東工大教授リベラルアーツ副院長の室田真男氏に、ファーストスピーチをお願いしました。とても興味深いお話で、その後の質疑も活発に行われました。

「新時代の学び」
変わる学び、
変わらない学び

98期 室田 真男

98期の室田です。専門は教育学です。本日は「新時代の学び」変わる学び、変わらない学びというテーマで、現代における学びの在り方についてお話しします。



従来の学び

従来の学びの代表的な風景として、ボローニヤ大学の14世紀頃の講義風景を描いた挿絵がよく引用されます。ここでは、先生が壇上で話し、学生はそれを一方的に聞くという形式です。知識を持つ者が教師であり、その知識を学生に伝達することが教育とされてきました。

この従来の学びは「効率」を軸にモデル化できます。学習者は皆最初は「初心者」です。そこに知識が注ぎ込まれることで、効率よくタスクをこなせる「定型業務の専門家(Routine Expert)」となります。このプロセスでは、記憶や反復練習、応用問題の解法といった学習法が主流で、いかに正確かつ速く正解へ到達するかが重要視されました。

現代の学び

しかし、現代社会は「VUCA」と呼ばれる不安定(Volatile)、不確実(Uncertain)、複雑(Complex)、曖昧(Ambiguous)な環境に突入しています。この社会では、単に「正解を導き出す力」はあまり意味を持ちません。そこで、何をどのように学ぶべきかが問われています。

VUCA時代の問題は、複雑で高度です。そこでは、今までに起こったことのない問題に対処しなければなりません。また、個人だけで解決できるものはほとんどなく、「適応力のある知識」と「チームでの解決力」が求められます。従来の「定型業務の専門家」

では対応が難しく、既存の知識を新しい状況に適応させる力が不可欠です。さらに、他者と協働し、新しい価値を創造できるリーダーシップや共創力が求められています。

この状況を表すために、「効率」の軸に加え、「創造性・革新性」の縦軸を加えたモデルが示されています。「創造性・革新性」を持つ「適応力のある専門家」(Adaptive Expert)は、変化に応じて知識を適用し、イノベーションを生み出すことができる人物です。これからの学びは、この「適応力のある専門家」を目指さなければなりません。

転移可能な知識

「転移可能な知識(Adaptive Knowledge)」とは、異なる分野にも応用できる知識を指します。この知識を得るためには、学習した内容を自分自身でさまざまな視点から見直し、再構築することが求められます。このプロセスを学習者自身が繰り返すことで、知識の本質が明らかになり、他分野への応用が可能となります。これを実現する教育方法が「アクティブラーニング」と呼ばれています。

ここに示すのは「ラーニングピラミッド」です。これは、各学習活動がどの程度記憶に残るかを視覚的に表したものです。講義を聞くだけでは時間が経つとほとんど忘れてしまいますが、体験や実践を通じた学びは、知識がより深く定着します。特に、議論や人に教える活動は、知識を転移可能な形で習得するのに有効です。

アクティブラーニングは、能動的学習とも呼ばれます。能動的に学ぶことの重要性は、1983年の実験によって示されました。その実験では、AとBという2匹の猫を回転木馬に繋ぎ、Aは自分の足で歩き、Bは歩かずにAの動きに合わせて景色が変わる仕組みでした。両方の猫が同じ景色を見て同じ空間を体験したにもかかわらず、Aは空間認識能力を獲得しましたが、Bはそれを得られなかったという結果が出たのです。皆さんも同じような経験をしたことがあるかもしれません。例えば、車を自分で運転すると道順を覚えやすいのに、助手席に座っているだけでは覚えにくいというものです。能動的に学ばない限り、知識は身につきません。知識は単にコピーされるものではなく、自分の手で作り上げていくものなのです。

「自由人」の育成

古来のリベラルアーツ教育の目的は「自由人」の育成でした。ここで、自由人というのは、奴隷から自由になるという意味です。そのために、自由七科と呼ばれる、今でいう教養教育がなされました。人間として偏らない知識や、文理にまたがる幅広い教養と言われます。

現代のリベラルアーツ教育には明確な定義は存在しませんが、現代において「自由人」となるためには、様々な境界や壁を越える力を育むことが重要です。自分が

安心して行える範囲、いわゆるコンフォートゾーンに留まっている限り、失敗や苦労は少ないかもしれませんが、予測不可能な事態に対処することはできません。さらに、コンフォートゾーンに留まり続けることで成長が停滞し、脳の活性化も妨げられることがわかっています。このような状況では「自由人」としての成長は望めません。現代のリベラルアーツ教育は、コンフォートゾーンを超え、未知の領域に挑戦する力を育てることを目標としています。

現在の学生には、受動的で主体性の乏しい傾向が見られます。自分のためにすべてが用意されているのが当たり前、と思っている学生が多くいます。自分で何かを創り出そうという気概をもつ学生が少なくなっているように感じますが、主体性を持たない限り、コンフォートゾーンを突破する力は育ちません。

東工大のリベラルアーツ教育

東工大のリベラルアーツ教育は「志」をテーマに掲げ、対話を重視した教育を実践しています。対話は「語り」と「傾聴」から成り立ちます。「語り」とは、相手の立場を客観的に理解し、それに合わせて自分の考えを再構築し、言葉にする行為です。これにより、自身の知識を再検討し、深めることができます。「傾聴」は、相手の話をまず肯定的に受け止める、共感しながら耳を傾ける行為です。この2つが揃って初めて対話が成立します。対話を通じた学

習は、単に「正解を導き出す力」はあまり意味を持ちません。そこで、何をどのように学ぶべきかが問われています。VUCA時代の問題は、複雑で高度です。そこでは、今までに起こったことのない問題に対処しなければなりません。また、個人だけで解決できるものはほとんどなく、「適応力のある知識」と「チームでの解決力」が求められます。従来の「定型業務の専門家」

びは新しいものではなく、古代ギリシャのソクラテスも実践してました。質問と回答を繰り返すことで、対話者が自ら真理に気づく手助けをする教育方法で、「無知の知」という言葉が有名です。対話とは、相手の意見を受け止めつつ、自分の考えを再構築し、知識を確認・深化することで自己の成長を促す行為なのです。

志を育む意義は、次の3点にあります。自らがやりたいことを実現して未来を創ろうとすること、それに意味を見いだすこと、そして、それらは、内発的動機に基づく創造活動へと繋がることです。この過程で、他者と協働し新しい未来を創る「構想力のある専門家」へと成長していきます。

東工大のリベラルアーツ教育は、学士課程から博士後期課程まで、コア学修科目と多様な教養科目を提供しています。博士後期課程まで教養教育を必修にする大学は多くないと思いますが、変化が激しい現代において真に自由人となる力を育成するための教育を続けていきます。

これまでの学びは、知識を蓄積することが中心でしたが、これからの学びは、対話を通じて新しい価値を創り出すものです。そのため、自分の興味に集中し、主体的に学び続けることが大切です。また、対話を通じて転移可能な知識を習得し、チームの力を信じ、協働する力を育むことが求められます。そして、ビジョンを持ち、そのビジョンを基にチームに

貢献できる人材の育成を目指しています。

なお、東京工業大学は、今年10月1日から東京医科歯科大学と統合し「東京科学大学」になります。略称は、Science Tokyoです。本日はありがとうございました。

異業種交流会は三部構成

- ① 18時半～19時
ファーストスピーチ
- ② 19時～20時(60分)
参加者自己紹介
- ③ 20時～20時50分
飲食交流会(希望者)



平日の夜に開催している異業種交流会は18時半開始。各職場などから地下鉄を乗り継ぎ、皆さん駆けつけてくださっています。自己PRも駆け足で行い、その後の交流会では各々で名刺交換・情報交換が活発に行われます。慌ただしいプログラムですが、それぞれのお話や出会いは、明日からの日々に何らかのヒントが得られ

るかもしれません。どなたでも参加できますので、未経験の方もお気軽にご参加ください。



次回のご案内

日時：2月27日(木) 18時半
場所：日本プレスセンター9階
94期・吉永陽子氏(精神科医)
「今時の精神科治療について」
めざましい進歩を遂げる新薬の情報など、精神科治療の最前線のトピックを紹介いたします。

【吉永陽子氏プロフィール】
聖マリアンナ医科大学卒業。同大
学現予防医学教室所属後、川崎市
衛生局に入職。1996年長谷川病
院勤務、2007年より院長。2023
年より三生会病院院長。
資格：精神保健指定医、同指導医、
日本精神科病院協会認知症専門
医、精神科専門医、同制度指導医、
臨床研修指導医。エイズや児童虐
待、性被害、DV相談等に従事。
◆お申込みはメールで期・氏名を
お知らせください。
shizukokanto@gmail.com

**母校キャリアデザイン
ツアーレポート**

母校では、毎年夏休みを利用して、生徒自身が大学受験の先も見据え、未来の自分をイメージしてみる契機となるようにと、キャリアデザインツアーを実施しています。
今年8月22・23日に、74名の1、2年生が参加しました。関東同窓会では何名かのOBに職場案内や交流会での協力をお願いしました。会員からの母校現役生の様子を知りたい、というリクエストにお応えする形として母校に進路だより『岳南健児』と写真の共有の了解をいただきました。ぜひ、高校生になったつもりでお読みになってみてください。

つた後にできる轍(わだち)のこと。それが転じて、人生の経路、経歴、職業などを意味するようになった。今まで歩んできた道のり、現在見ている風景、その先に広がる未来、そのすべてが「キャリア」と言っても良いだろう。

キャリアデザインツアーでは、卒業生や社会人との交流を通じて、これからの人生を豊かなものにするきっかけを見つけることができる者が多くいたようである。みなさんにもそれを共有できればと思つて。



僕の前に道はない 僕の後ろに道は出来る 高村光太郎「道程」

(1年生)

今回のキャリアデザインツアーで、僕はたくさん刺激を受けました。初日の東工大見学は、初めての大学見学で度肝を抜かれました。施設もすごく新しく、ここで勉強したいと思いました。模擬授業では、大学での学びのレベルの高さに驚きました。パッと見せられた式とかは、あまり意味



静高進路だより
2024.09.18号
静高進路課
～清きは吾等の
こころなり～

I 静高キャリアデザインツアー
2024報告
「キャリア」の語源はラテン語のCarrariaで、これは馬車が通

が分からなかったけど、原理はなんとなく分かったし、高校数学がこんな風に大学の理学、工学に活かせるのだということが分かったので感心し特に工学に興味を持つきっかけになりました。そして、学食のコスパの良さにはびっくりしました。大学の魅力の一つだと思いました。その後のアジア開発銀行では、グローバルに活躍する会社について分かりました。自分がニユースでよく目にする国際問題やマクロ経済など向き合っているのはこういう人達なのだと思います。それと同時に、国際機関で働くのがすごく難しいことだと思いました。重要な仕事だからと、いろいろなところで経験を積む必要があるし、高い教養が必要だから、すごく難しいです。でもだからこそカッコいいと思います。僕も世界中で活躍する大人になりたいです。東大生との交流では、すごい衝撃を受けました。僕は英語が苦手だったので質問をしたところ、とりあえず単語を覚えるべきと言われたので、日々のシス単を大事にしたいです。他にもたくさん先輩方の話を聞く中で、今の自分に何が足りないか明確になりました。そして2日目の東大での宇野さんの模擬授業では、大学の授業に興味を湧きました。宇野さんの、周りを巻き込んでいくような話し方はすごいと思ったし、授業内容も充実したものでした。社会で生きていくために必要なスキルをたくさん教えてもらいました。3時間くらい聞いていても全

く飽きない話ができるってすごいなと思います。日本最高峰の授業を受けることができ、本当に良かったです。住友商事の二人の話もすごくためになりました。僕はあまり商社というものを知らなかったのですが、多岐にわたる仕事によって社会に貢献しているのだと思いました。お二人からは、若いうちからたくさん経験を積むこと、未来を見据えることの重要性を教えてくださいました。



東京工業大学 TakiPlaza

今回のキャリアアテザインツァーで学んだことは、何ごとにも主体的に取り組むべきだということです。東工大の授業では、自ら問いを考え設定してそれに対して試行錯誤していく人達の話を知ることができたり、アジア開発銀行の牧野さんも、住友商事の二人も、最初からやりたいことが決まっていたわけではないけど、たくさん「やってみる」を繰り返して今までやってきています。現役東大生の人達も、自分のやりたいことをやるために日々学んでいるのだと分かりました。とにかく、宇野ゼミで学んだように、たくさん経験をすることで社会的スキルを身につけ、主体性のある



住友商事キャリア教育支援事業 Mirai School

リーダーシップを発揮できるような人間になりたいです。今回のキャリアアテザインツァーはきっかけになると大きな成長のきっかけになると思います。

(2年生)

僕は今回の静高キャリアアテザインツァーに参加して、自分の可能性を自ら積極的に広げていくことの大切さに気づいた。住友商事の方のお話の中で、色々なことに興味を持って取り組んでみたい、コンフォートゾーンという「満足している現状」の先へ踏み込んでみたりすることが自分の価値観を新たに構築できるチャンスであるということを知った。そうすることで、自分の視野が広がり、可能性も広がってくるということが分かり、これは自分のキャリアを形成していく上で非常に

に重要なことだと思った。また、講師の方のうち一名は、当初は全く異なる職業を目指していたが就職浪人を機に自分をよく見つめ直し、環境省を経て今の仕事をされているとおっしゃっていました。実際に働くのは自分なのだから、自分のやりたいと思うことをよく理解し、それに向かって目標を立てて進んでいくことが大切だと思った。僕は現在、志望している大学、学部がある。しかし、今まではその進路以外について調べたり、興味を持ちたりしていなかった。これはもしかしたら、自分で自分の可能性や成長するチャンスを狭めてしまっていたかもしれない。この講演を聞いて、昔から興味のあった志望先とは違った進路についてももっと考えてみたいと思うようになった。

また、自分の可能性を広げるために、勉強や様々な実体験がとて有効であると学んだ。まず、勉強については住友商事の方のお話の中の、将来こんなことを使わないだろうというような学校での授業も、知識が定着していれば思いがけないところでそれが活かされることがある。「知識は世界の解像度を向上させる」という言葉や、アジア開発銀行の方の、「自己研鑽で将来が広がる」という言葉が印象に残っている。これを聞いて強制される勉強ではなく、自分から積極的に学ぼうとする勉強が大切だと思った。勉強や自分のスキルアップなどに取り組むことは、単に可能性を広げるだけでなく、自分の人生をより豊かに

有意義なものにすることに繋がると思うし、それらは学生時代だけでなく社会人になっても続けていくべきことだと思っているので、今のうちから自分に足りないところを補うためや、得意な分野をさらに伸ばしていくための努力をしていく姿勢を身につけたいと思う。また、様々な実体験をすることの1つの手段として、東京大学の宇野教授は留学について少しお話ししてくれた。海外に出てみることで、日本とは違う文化や人々の感性に触れることができたり、日本を普段と違った視点から見つめ直すことに繋がったりする。留学の機会が大学で得られるならば、積極的に参加して自分の視野を広げていきたいと思う。僕は、このツァーに参加して、今までよりも自分がやっていくことがはつきりしたように感じた。自分のキャリアを決めるのは自分であり、その決める際にどれだけ多くの選択肢を持っているかというのは、それまでの自分次第であるので、なんでもできる学生の今のうちに自分の人生を豊かにするための何かを積極的に拾えるようにしたい。

(進路課より)

大変好評であった宇野ゼミから一部を紹介する。

人生の50%は自分の時間だから自動的に幸せ。残り50%は他人との時間だから社会的スキルが高いと100%幸せに近づく。社会的スキルの基礎となるディスカッションのポイントとして、

①主体的に発言 ②発言配分を意識 ③軽く笑いを起こすが挙げられる。これらは場数を踏むこととで人格は形成される。一生をかけて人格形成は続いていく。本当に優秀な人は多重人格で、場に応じて、面白さ、優しさ、厳しさを使い分けることができる。



東京大学 教養学部 宇野ゼミ

II 今後の予定

- ・3年生放課後講習
- ・3年生校外模試(10月5日)
- ・中間テスト(10月9〜11日)
- ・希望者校外模試(10月13日)
- ・全学年校外模試(10月19日)

生徒のアンケートより (交流会)

・自分の進路の選択、今後の勉強方針の検討に大いに役だった。食事を共にできて、より深い話を聞くことが出来た。



卒業生との交流会 in 横山館

・今の自分と難関校に行く人との差が明確になって、モチベーションが上がった。
 ・東大の先輩だけでなく、色々な大学の先輩の話も聞いてみたかった。質問が絶えず夕食後まで質問した。先輩との交流はリアルな話をしてくれるのですごく参考になった。
 ・できれば理系の人とたくさん話したかったです。
 ・先輩ごとに話されている内容がいろいろでも興味深かったです。とても楽しかったです。
 ・めちゃくちゃ参考になった。ただ逆転合格しました！みたいな人も欲しかった。みな1年生の頃から着実に準備しててすごかった。
 ・先輩方との交流の場はとても貴重で良い経験となりました。実際の先輩方の話を聞くことが一番自分の知りたいことを知るための近道になると思ったので、またこういった機会があればぜひ参加させていたいただきたいです。

・とても先輩から勇気もらった。様々な事を質問したり、話していただいたりしたため有意義な時間となりました。
 ・先輩に勉強法など高校生活のお話を聞けるのはもちろん、研究者の方に自身のキャリアなどを伺えてとても良かったです。東大の方のお話は参考になった以上に気圧おそされました。自分も頑張ろうと思えるいい機会でした。
 ・この時間がキャリアデザインツアーで1番自分にとって価値があったと思う。

関東同窓会の皆さまへ

静岡高校で進路課長を務めております、110期の久保田好則と申します。

高校生の考えるキャリアとは、どの大学に進学するか、どの企業に就職するかである場合が多いです。しかし、生徒はこのキャリアデザインツアーを通して、人と人の繋がりや自己研鑽によって人生が豊かなものになることを学ぶことができたようです。ツアー参加者からその学びが少しずつ広がり、生徒たちのキャリアに対する視点(視野)が変化していくと良いと考えております。

生徒の貴重な学びの場を作るために、関東同窓会には大変ご尽力いただき感謝しております。この場をお借りしてお礼申し上げます。

参加OBより メッセージ



東大薬学部・助教、132期の山梨祐輝です(専門分野:有機化学)。勉強や進路など

様々なトピックに関して、皆さん熱心に話を聞いてくれました。「学部選びで興味と就職どちらを優先すべきか」という質問が印象的でした。興味を追求する大学でなくても、その後の仕事や人生に生きてくると思います。静高生の皆さんには、視野を広げて納得のいく進路選択をしてほしいです。



東大法学部3年、137期の美和侑磨です。意欲と情熱ある静高現役生たちからお話を聞くことができ、自分自身も初心を思い出し、とても良い刺激となりました。少しでも後輩の方々が自分の進路選択と向き合い、より良い意思決定をするための一助となれましたら幸いです。

☆☆☆



一橋大学社会学研究科修士2年、134期の小杉亮太です。9年前に自分も参加したこのツアーに先輩として参加できて嬉しかったです。

現役の方から意欲的な質問をたくさんいただきました。学業だけでなく、学業以外の高校生活で培ったものも今後の財産になるので、大いに今の高校生活を楽しんで欲しいとお伝えしました。今後の皆さんの高校生活が素敵なものになることを祈っています！

このほかに、以下の方々のご協力を賜りました。(敬称略)河合正弘(82期・アジア開発銀行顧問)、浅川雅嗣(92期・アジア開発銀行総裁)、牧野正春(108期・アジア開発銀行駐日事務所次席)、室田真男(98期・東京科学大学教授)、菊地崇史(127期・住友商事キャリアサポート事業)。現役大学生には進路課より直接お声がけをしています。母校は今年度、文科省よりDXハイスクールに指定されました。理数系進学、IT関連分野や文理横断的なお仕事をされている方のお話を聞きたいというリクエストが増えています。キャンパスや職場案内、交流会に協力いただきそうな方のご紹介を含め、在校生を応援する皆様の情報をお待ちしております。(副会長・中沢京子)

エッセイ集

静高後輩へ、 華やかな文壇デビューを望む

81期 若桜木 虔(稲村直彦)

今回「ビッグ・タイトル新人賞を射止める小説の書き方」というタイトルで、キンドルから電子出版しました。

この手の本は、紙本ですと採算が取れません。それだけ現在の出版界は、底の見えない不況に喘いでいます。

私は七十七歳になる現在もインターネット上で「プロ作家になるための通信添削講座」を開講していて、これまでに加藤廣(『信長の棺』『秀吉の枷』『明智左馬助の恋』の三部作がベストセラー)、鳴神響一(角川春樹小説賞と野村胡堂文学賞のダブル受賞)、愛野史香(角川春樹小説賞を受賞)、泉ゆたか(小説現代長編新人賞と日本歴史時代作家協会新人賞ダブル受賞)、小島環(小説現代長編新人賞受賞)、仁志耕一郎(小説現代長編新人賞と朝日時代小説大賞ダブル受賞)、田牧大和(小説現代長編新人賞受賞)、桜井真城(小説現代長編新人賞受賞)、川越宗一(松本清張賞と直木賞ダブル受賞)、千葉ともこ(松本清張賞と日本歴史時代作家協会新人賞ダブル受賞)、石川溪月(日本ミステリー文学大賞新人賞受

賞)、茜灯里(日本ミステリー文学大賞新人賞受賞)、大谷陸(日本ミステリー文学大賞新人賞受賞)、赤神諒(日経小説大賞と大藪春彦賞ダブル受賞。上智大学教授)、西山ガラシヤ(日経小説大賞受賞、平茂寛(朝日時代小説大賞受賞)、木村忠啓(朝日時代小説大賞受賞)、近藤五郎(富士見新時代小説大賞と『幽』怪談文学賞ダブル受賞)、三國青葉(日本ファンタジーノベル大賞優秀賞受賞)、南原詠(『このミステリーがすごい!』大賞受賞)、有間カオル(メディアアワークス文庫賞受賞)、松葉屋なつみ(C★ノベルス大賞と創元ファンタジー新人賞ダブル受賞)、時武里帆(ゴールデン・エレファント賞受賞)、神尾水無子(小説すばる新人賞受賞)、高田在子(朝日時代小説大賞最終候補)、藤井龍(角川春樹小説賞最終候補。本名の出水千春でも作品あり)といった面々を文壇に送り出しています。

この分野では日本の第一人者である自負しており、大阪で同様の講座を開講している有栖川有栖が最大のライバルで、常にメール交換しては切磋琢磨し合っているところ。

静岡高校の同窓のプロ作家には村松梢風(村松友視の祖父で旧制中学の時代)、三木卓(昭和四十八年に芥川賞受賞)、村松友視(昭和五十七年に直木賞受賞)、瀬名秀明(平成七年に日本ホラー小説大賞を受賞)がいますが、残念ながら瀬名君以降は、目立った作家が出ていない状況です。

できれば拙著を多少なりとも参考にして、静高後輩が何人も華々しく文壇にデビューして欲しいと願う、この頃です。



https://www.amazon.co.jp/dp/B0DCJ2R3L5

ビッグ・タイトル新人賞を射止める小説の書き方 (Kindle版)

脱サラ11年目のモノログ(中)

86期 成岡 和美

二十一世紀を迎えて開店から五年が経過した。さて景気の方だが、これから回復するだろうという予測はもの見事にはずれ、飲食業にとっても暗黒の時代となった。ITバブルの瞬間的な燃え上がりも見られたが懲りない金への追慕だけ。リストラにより企業の最前線にいる働き・遊び盛りの三十、四十歳代の仕事量は逆に三割ほど増え、飲み歩く機会が激減した。接待費の大幅な削減などもある。終電も従来見られた顧客で満員などの場面は減り、素面の残業組が疲れた体を揺らせてい

る光景が目立った。東京・青山という場所は、バブル時代には証券会社の支店が数社もあったほどで、地価も上がり何かと話題になる華やかな土地だった。だが開店後十年間で、少なくとも七割の飲食店がクローズ、あるいは業態変更を余儀なくされた。何事もそうなのだがお金や人間のエナジーは一時、活況を呈する地点や現象に一極集中するが、悪化すると一転、酷薄な悪女のようにすべてを奪い、立ち去ってしまう面もある。もてはやされた果てのツケがきたようなものだ。また、飲酒運転の罰則強化も率直に申せば土地柄が大いに影響があった。お客は瞬く間に三割減。それでも訪ねてくれた車派の常連はノンアルコールのビールをチビチビやっていた。来てくれるだけで心から有難いと感じたものだ。

暗黒時代といっても楽しいことも満載だった。酒場経営の愉快ー飲んでいる人の心の状態が時にはむきだしにあるいは透けて見える場所、幸せの一片も悲しみも人骨柄も虚ろな栄えもカウソターの内側から少なからず見えてしまう場所。まあ、健康一番、愉快が二番でやってきたのが幸いだったのか。そしてこうした人の直截な嗜好にかかわる商売を経験してみると、買う喜びと同時に売る喜びがあるということがわかった。

現代では巨額な電子取引が幅を利かせたりするが、手ずから現金をいただくことは働くことを生身で実感できることだとつくづく思う。何よりもお金やそれを生み出す労働のプロセスに向き合い、お金の儂さ、大切さ、空しさなどを知ることが出来る。妙に自分を外側から見ても柄にもなく謙虚になったりする。昨今、喧伝されている勝ち組、負け組、格差などの言葉もただ金の臭いが立ち込めているだけで、叶えられたいとしても失うものも多量で自分の心を沈静させたものだ。負け惜しみだが。

さて、深夜の酒場の経営は不健康の代名詞のようにならざるを得ない。そこに通うお客も然りである。しかし、故山口瞳さんの言葉に「酒場で一番大切なマナーは健康だ」というものがある。

これはお客サイドからいえば美味しいものを美味しく食し、旨い酒を飲めるように体調を整え酒席を共にする人と喜びを共有し酒を純粹に楽しむということか。店に立つ人間にもそれはいえぬ。日々、健康な体と気持ちでお客様を迎える。気持ちよく真つすぐに。当たり前のことだが難しい。この体力を支えてくれたのは日々のランニングだ。十年余り、独学で運動生理学、免疫学を学んできた。お客の中には肩こり、腰痛など体の不調を訴える方が見受けられた。ほとんどが働き過ぎ?とストレス過多、そしてそれによってたらされた血流障害が原因である。そんなお客に「休日に駒沢公園にいらっしやい」と声を掛けるとカップルやファミリーで集まった。歩いたり、ゆっ

くりジョギングしたり。店を閉じた今でも楽しい付き合いが続いている。

「文学・芸術愛好家の楽園」

92期 清水 篤

たまたま当シエイクスピア・ギャラリーで明治期の画家特集を企画していた時に、八牧浩行先輩（82期）から、瀬野覚蔵という洋画家の「奈良浅茅が原」という明治四三年の作品を預かり展示する事になった。そうだった機縁もあり、ギャラリー創業五年に至る私の人生談を書いてみたい。

私の家は焼津港近くにあったので（静高は越境入学）、古本屋と言えば港近くの漁船に積み込む資材売店に並んで、古漫画やエロ本他漁船員が船中で暇つぶしに読むための本を売っている店が近所に二、三軒あった。魚臭い街の中で、地元には小川国夫という令名高い文学者もいたが、私が最初に覗いたのはそんな古本屋だった。静高に通い新聞部部室で毎日トランプに興じ「一富士」でラーメンばかり食べていたが、文学趣味は高じて三島由紀夫全集と庄司薫と、伊丹十三の『ヨーロッパ退屈日記』『女たちよ』が十

七才のバイブルだった。東大では工学部都市工学科を卒業したが、駒場時代から「東大新聞」ばかりやっていて就職は最初からマスコミ志望で、新聞社で美術演劇記者か、出版社かと迷い

つつ、民放局を選んだのも思えば伊丹十三の影響が強かったのだと思う。入社後、映画部プロデューサーとして伊丹映画にも少し関わったが、高校の頃から「このようなヨーロッパ感覚の人は日本風土では辛いだろうなあ」と思っていたが、後に伊丹の自殺を知り、改めてその感を強くした。

就職試験は「日テレか、TBSか、または古本屋になるか」という究極の三択だった。結果その一番初めの会社に四十年勤める事となったが、三十年代四十年代の頃も会社を辞めて古本屋をやるうと親しい古本屋に相談に行った。私の提案は「古本屋に喫茶店を併設して、文学・芸術愛好家の楽園を作る」という企画だったが「阿呆な事を言うな」と一蹴されてしまった。古本屋も喫茶店も斜陽産業だ、と言うのだ。その後NYに出張した時に巨大書店にスターバックスが併設されている新業態を見て、「ホラ俺の言った通りだろう！」と思った。日本にそのようなスタイルが入って来たのはその十年位後の事だ。

民放の世界にも80年代頃迄は、美術や映画演劇等懐かしい香りが残っていた。私は会社ではその手の話をしなかったが、相当な変人と思われていたに違いない。さて五十代となり家族の都合もあって神田駿河台に小さな部屋を持ち（家族もすっかりそちらを気に入ってしまった）、また数年前にマンションの階下の画廊が閉店と聞き私が受け継ぎ形になったのが、今の「シエイクスピア・ギャラリー」だ。画廊兼古書店と名乗るが、私の古書趣味も近年は浮世絵から版画、明治古写真とヴィジュアル中心に変わって

いて本は売っていない。今は明治から昭和中期の近代洋画を中心に商売している。ちょうど高二の時（一九七四年）に刊行されたシルビア・ビーチの著書『シエイクスピア&カンパニー書店』を目標として人生を歩み、神田駿河台という「日本のカルチエラタン」で美術商という言葉ば

堂々の花道だが、思えば十代の頃からこんな事をやりたい、と始終私は口にしてきた。「そう言っていると、夢は必ず叶う」というのが、静高の後輩への、私のささやかなメッセージである。



ギャラリーと言っても半分倉庫のような所。「美術書の読書会」「音楽友の会」の小パーティー等をよく開催している。

標の星に、手を伸ばせ。

118期 上村 里奈

同窓生の皆様、健やかに過ご

しでしょうか。118期の上村里奈（旧姓・塩川）と申します。この原稿を書いているのは7月末、雷が鳴ってやけに空が薄暗い昼下がりでです。私自身は雷が苦手ではなくむしろ好きなのですが、乾いた冬の雷とはまた違った重たい夏の雷にも風情を感じるところです。

さて、以前にも私は誌面のいくらかをお借りして寄稿させていだいたのですが、今回もその機会をいただきました。前回は作家としてデビューした話でしたが、今回はなんと続編刊行のお知らせです。中村汐里名義でのデビュー作『殺割る音』は文学賞の受賞作ではなくレーベルの隠し玉としての拾い上げ作品でした。それが酒飲み書店員大賞という、千葉・東京を中心としたローカルの書店員賞を受賞し、続編の刊行に至りました。続編が出るのは本当に嬉しいことです！

私にとって2冊目となる新刊のタイトルは『天満つ星』です。そらみつほし、と読みます。前作の主人公であるさくららの中学生編で、一言でいうならば「熱血部活モノ」でしょうか。中学や静高で部活に打ち込んだ（かもしれない）皆様の胸にも響けばいいなと思います。新刊をプレゼンさせていた

だきたいところですが、その前に主人公のさくららについて少し紹介します。前作『殺割る音』は、中学受験を目指す6年生のさくららが調理実習を機に料理に目覚める、という物語でした。また、さくららの家

庭は出来合いの総菜や外食の多い食生活で、母が手作りのごはんを作ってくれないため（これには理由があり、後々明かされます）さくららは手作りの料理を両親に振る舞いたい、と健気にオムレツ作りの練習を重ねます。さくららの心を含めたオムレツは、そして受験はどうなる？ というのが大まかなストーリーでした。

「禮桜女学院中等部に入学した室本さくら。早速入った調理部は和やかだが、さくらには憂いがあった。それは三年生の北見ななせ。彼女は部活を休みがちで、たまに来ても人と交わらず風変わりな言動をとるばかり。他の先輩はななせを疎んじていて、さくららにはその雰囲気があったまれない。その頃、小学校の友人・璃子と中学の同級生・薫と三人の友人関係が始まった。璃子と薫の淡い恋を応援するため夏祭りに出かけるが、さくららの失言から2人とは喧嘩別れをしてしまう。

部活もプライベートもうまくいかず悩むさくら。そんなとき、2月に開催されるお菓子コンテストに参加することに。積極的になれないさくららと無理やりコンビを組んだのはななせだった。戸惑うさくらだったが、ひよんなことから、ななせが隠していたある事実を知ってしまう。それを機に、さくららはななせのためにコンテストでトップをとることを誓うのだった。

同窓生の皆様、健やかに過ご

果たして三ツ星は手に入るのか。そして友人たちとの仲は？ 苦難を乗り越えながら成長していくさくら姿に、感動の声続々とつても甘くて、でもちよつとしよっぱい青春スィーツ小説！



中村汐里著『天満つ星』小学館
文庫・七五九円（税込）

連載エッセイ
たかが同窓会、されど同窓会
第28回「終わりよければ…」

71期 浦田 彰

さて、いかがでしょうか。『天満つ星』のあらすじで、さくらの受験がどうなったのかは明かされてしまいましたね！ 続編となる今作はおいしい小説文庫からデビューした私の飯テロ小説2作目です。前作同様、グルメ描写にはかなり力を入れていきます！ そして中学生女子ならではの友情の難しさ、上を目指すためのメンタルの持ちようなどなど、さくらが乗り越えたいハードルも……。

子どもの心でも、大人の心でも楽しめるように書き上げましたので、どうかお手にとっていただければ幸いです。ひたむきにまっすぐにつぺんを目指さくらが、皆様に勇気を与えられることを、作者として願ってやみません。

♪ そんな時代もあったねと
いつか話せる日が来るわ
あんな時代もあったねと
……
まわる まわるよ
時代はまわる
喜び悲しみ くり返し

中島みゆきが歌う「時代」、私の大好きな歌のひとつです。88年生きてきました。まわる時代とともに。さまざまな出会いと別れがありました。

この春、静岡の同期生からの便り、久しぶりに同期会をやる、という知らせです。米寿を祝うとともに最後の同期会になるかもと……。

6月3日、会場の静岡駅前葵タワー24階ブケトーカイに参集した71期の面々は53名。私も関東在住の同期生と共に参加しました。同期35名中の53名、多いというか少ないというか……「よう！しばらく 元気かい」の合言葉、7年前の「傘寿の集まり」以来の無沙汰を忘れさせる元気な声が会場に溢れました。思い出せば、2005（平成17）年に卒業50年を祝って集まってから2006年に古希の会、2013年には喜寿を祝い、

とにかく集まることでお互いの健在ぶりを確認し合った同期会です。

さて、定刻、幹事の挨拶もそこそこに早くも談論風発、まずは物故した同期生の思い出、参加できない仲間の消息。解析Ⅱの追試験や英語のカンニングの苦い思い出、特に受けたのは、今だから話せる某恩師の艶話……お招きした同窓会事務局長の三浦俊一先生の挨拶のなかで、先生がお生まれになったのは我々が入学した前の年だと明かされて一同びつくり……73年の星霜！

そして、孫の自慢話と仕事での成功譚はタブー。となれば、ヤマイとオイのこと、誰でも思い当たること多々あり、車椅子で参加のA君の闘病記、B君の独居老人の生活の知恵、杖を頼りに参加したC君の養護施設の住み居心地、最近伴侶を亡くしたD君の述懐にしんみり……会なかば、幹事の一人望月重里君が発言、我らの集まりには欠かせない甲子園情報。今年、の静岡野球は春の県大会で準優勝、さらに山梨学院、日大、大垣、近江高校など県外の強豪と、勝負をした。夏の甲子園へ向けて今年はおおいに期待できるぞ、というご宣託。一同、がんばれのエール。時移り、歓談たけなわを制して関東勢有志が登壇、伊藤勝君のギターで校歌、応援歌、逍遙歌をはじめ、懐かしのメロディーを熱唱……いつ果てるともない同期会でした。

別れの刻来り誰かが「また会おう 今度は卒寿だ！」との声もあ

りましたが、ほとんどの出席者は、今日で同期会も最後だな、という覚悟めいた感慨を持ったようでした。終わりよければ全てよし、でしょう。

散会后、十数名の有志が三浦先生のご案内で長谷の母校を見学。5階建てに生まれ変わった校舎を見上げたり、放課後クラブ活動に励んでいる生徒たちの礼儀正しい応接ぶりに感心したり、女生徒の多さに軽い違和感を覚えたりました見学者たちでした。

みんなに会えたとし、静岡の今の様子も散見できたし、満足した気分での帰りの新幹線でした。車中ふと口にてた、みんなで歌った最後の歌「今日の日は さようなら」

♪ いつまでも絶えることなく
友達でいよう
明日の日を夢見て
希望の道を
信じあう喜びを
大切にしよう
今日の日はさようなら
また逢う日まで

少し寂しかったのは、関東から参加したK君は弟さん宅へ、F君は叔母さん宅へとそれぞれ静岡の縁をたよりに、久しぶりの故郷を楽しむということ。横浜に帰るしかない私です。車中で考えました。私のような故郷喪失者にとって同窓会は、東京砂漠の中のオアシス。失った故郷をとり戻すよすがではないか。たかが同窓会、されど同窓会です。



……後日、
① 残念！ 今年の夏、静岡野球は甲子園に届かず。来年を期す。
② 静岡の池端達雄君、関東の遠藤吉隆君が立派なアルバムを作成。いい記念となりました。

震災の備えは大丈夫ですか？
岩手ツアーで

「巨大地震注意」に体験想起

92期 日下 淳

関東同窓会有志による岩手ツアーを4月13・14日に開催した。今年には東日本大震災から13年を経過し、年初には能登半島の地震を経験した。ツアーは陸前高田市を訪れ、仮設住宅に宿泊すると共に、防災・減災の学習プログラムに参加し、災害への備えについて色々学んだ。

ツアーは震災復興団体「Save Iwate」を運営する寺井良夫氏（92期）の陣中見舞いを兼ねて2014年から実施している。今年には87・94期の9人が参加した。



宿泊した仮設住宅の前で。施設は震災後の数年間、実際に使用されていた。

訪問した「3・11仮設住宅体験館」は、震災後に仮設が並んでいた旧米崎中学校の敷地内に、実際に利用していた施設を使って2021年秋に開設した。住宅内部には当時使っていたテーブルやラックなども残り、生活の様子をうかがわせた。ここで日常生活は送れるだろうが、やはり狭苦しい感じは否めなかった。隣との壁の薄さも気になった。室内には「冬は結露が大変だった」とか、「隙間から虫やカエルが入ってきた」など体験を記したメモが貼ってあった。



仮設住宅の内部。当時の生活の様子が伝わってくる。



学習プログラムでは避難所生活を疑似体験。1人当たりの場所は狭く、床は固く寒かった。

旧校舎（現在は陸前高田グロリアルキャンパスとして利用されている）で行われた学習プログラムに参加した。震災後の避難所で1人当たりのスペースは2平方メートルだったという。実際に寝てみると、床は固く、寒い。段ボールを敷き毛布にくるまっただが落ち着かない。避難所生活の実態が少し分かり、「ストレスの多い生活だったのだろう」と想像した。震災への備えについて、スタッフが改めて必要事項を整理してくれた。特に重要なのは、①被災直後の家族との安否確認態勢（災害用伝言ダイヤルの1711番など）、②家の耐震化や家具固定、③水や食料の備蓄（一週間分は必須）、④携帯トイレの準備、などという。参加者は「帰ったら早速伝言ダイヤルを試してみよう」などと確認し合った。



被災後自宅で1週間生活するためには、水、食料などこのくらいの物資が必要という。中でも携帯トイレは最重要だ。

前回は仮設住宅で飲み交わした。前回訪問時（2015年）からの。

陸前高田の変化、震災復興におけるボランティアの役割、政治への期待と現実、能登半島地震への向き合い方、そして東京や静岡で震災が起きたらどうするか……。重い話題も含めて議論しながら、約十年前にこの仮設に住んでいた人々は、どんな気持ちで夜を過ごしていたかと思いを馳せた。



震災から13年を経過した陸前高田の街。14.5メートルの津波に覆われた旧「道の駅」は震災遺構となり、かさ上げた場所には移転・新設した家が並ぶ。



陸前高田・広田湾岸の高田松原。2011年の地震に伴う津波で約7万本の松が消失したが、その後2021年までに4万本が植樹された。

※※※※※

ツアー終了後も参加者はフォロアアップの連絡を続けている。87期の高橋宏氏は6月末に輪島市などを訪れ、現地の様子を報告してくれた。

寺井氏らは能登半島地震発生直後に現地入りし支援活動を始めた。8月までに8回の訪問を重ねたが、復興はまだまだだ。少しでも貢献できることはないかと、輪島塗の漆器を利用したプロジェクトを立ち上げた。被災者から廃棄予定となった輪島塗を回収し、これを岩手や東京などで販売し、収益を被災地に還元する仕組みだ。

10月末には鎌倉の建長寺で岩手県の早池峰岳流・胡四王神楽公演を開催した。この場でも輪島塗の販売を行った。

8月8日、気象庁は南海トラフの「巨大地震注意」を初めて発表した。今後一週間以内に大地震が起きる可能性が平時より高まったとして備えの再確認を促した。岸田首相（当時）は外遊を取りやめ、鉄道会社は一部区間を徐行運転に切り替えた。

ツアー参加者の間でも陸前高田での体験を回顧し、「改めて備えの重要性を感じる」などのやり取りがあった。三陸復興の現状となお残る課題、能登の震災への向き合い方、東京や静岡で起こり得る災害への備え——今回もツアーやそのフォロアアップから多くを学び、新たな問いかけを得、そして静高仲間の交流の大切さを改めて実感した。

危機にあたり野球部OB と有志の決起を願う

岳南球友会94期 松永 啓

今夏県大会前の五月下旬から四十日間に、チームは二十勝三引分けの負け無しであり、この間に掛川西、日航山梨の甲子園代表に勝ち、昨秋以来、中京大中京、早稲田実等にも勝って九十勝を越え、歴代でも高い勝率だった。

夏本番では、序盤戦で、本校史上初の五投手継投(全員百三十五キロ超)が成功し、エース谷脇絶好調で臨んだ準決勝の快投は見事だった。だが大会中、思い掛けないクリンナップの低調を改善できず、浜商元名捕手の上村監督率いる聖隷クリストファーに九回逆転二対三で敗れ、同校に公式戦ゼロ勝三敗となった。常葉大菊川や浜松開誠館と並ぶ浜商OBが育む野球に屈したのは「先の県知事選と似て駿河名門に勝る遠州人の勝負強さ」とも言われた。

甲子園では、掛川西の六十年振り勝利で質実な校歌と大応援が賞賛され、大社が百七年前の二勝を超え強豪に三勝し八強と、正に県立普通校の星となる大活躍。菰野や石橋の健闘も合わせ、公立校が、低反発バットへの順応や各県のスポーツ推薦制度の活用などで聖地復活を果たし、本校はむしろ公立野球の一番手から、その他大勢に後退した感が否めない。

ここ二十年の本校が、裁量枠適用や他県からの志願者を含む極めて優秀な選手達(一時は大坂桐

蔭並だった)に恵まれながら夏本番であまり勝てない理由は一概に断定できず、下手な推論は無意味だが、明らかに昔の静高と今が異なる点は、OBの練習参加が圧倒的に少ないことだ。昔は、大正昭和平成にかけて選手の数以上にOBが常時手弁当でグラウンドに来て、初夏からチーム力が上昇するのが本校の特長であり、上野精三優勝投手も、準優勝の石山建一主将や野田真一主将も、皆口を揃えて、「先輩が大勢来たから強くなった。自分が勝ったのではなくて、静高の伝統が勝った」と語り、浜北OBの野島譲元監督も「自分の二つの目と言葉よりもOB達の十個以上の目と意見の方が選手を高める。静高の選手は、多様な教えから学び取る力を持っている」と再三指摘している。

現代は、管理主義が強まり、責任論にも敏感な世の中で、ハラスメント予防、安全管理も進み、良い面も多々あるが、逆に教師の負担ストレス、重圧が大き過ぎる。昔は常にOBコーチ・兄貴分が大勢居て、打撃も守備も選手は理不尽な程にしごかれるが、同時に様々な理論や方策や愛情が溢れており、その間に、監督はノックをOBに任せて観察者にもなれ、大参謀にも仏にもなれた。今は「学校のクラブ活動」と聞こえはよいが、部長監督が逼迫し、特に夏は、本来は多様な個性が創造性を開花させるオール静高野球が魅力と勢いを発揮できていない。強い私学は名将・コーチ・スカウト等のスタッフ力で闘う。本校はOB人材の宝庫なのだから、OBを生かしたい。今夏甲子園で、本校の石山建一OBが監督を指導していたチームは、東海大相模、明德義塾、早実、岡山学芸館、掛川西、聖カタリナなどで、聖隷クリストファーも石山さんに学ぶチームだ。数十年間にわたって圧倒的に勝ってきた石山野球(学校・父母・OB・同窓・地域を含む総合マネジメント)に学ぶチームが如何に多いか、静高OBの価値がどれだけ大きいのか、本来は静高がこれを生かすべきだ。

今秋は、名門というよりもひとつの公立校として選手は精励し、エース左腕吉田の快投を軸にした継投を、石橋主将遊撃手等のシヤープな打線と俊敏な守備で盛り立てたが、中部地区上位戦で東海大静岡翔洋に〇対一で敗れ、県大会は、強力な常葉大菊川と初戦で遭遇、常葉黄金時代を想起させる強打・本塁打攻勢を浴び〇対八で敗退し、遂にここで出発点に戻され、来年甲子園初勝利から百年目の再起を目指すこととなった。

岳南球友会は、若年(六十歳未満)会員を歓迎しつつ、七十期望月一男内野手会長等の九十歳台時代に向け「提灯行列はこの世で」を実現するために、大社高校と同じく聖地準々決勝に到達した場を祝賀大会を催し、歌舞音曲・祝詞奏上・提灯に点灯し駿府城公園一周(徘徊?)と自らが生存する目標を定めて、まずは、野球部OB皆様と有志の奮起(様々な形で)を願い、同窓ファンの連携・協力を再構築したい。



石垣大輝捕手は本校初の三代目 83→110→142 野球部員



増田煌太郎投手は快腕を調整中



吉田遥孔(はるく)投手は兄の優飛を超えるか



915 常葉大菊川 8 対 0 の公立校 (秋県大会初戦・掛川球場にて)



神様仏様ドカベン水野様



応援指導部は猛攻



三番一年名取凜人二塁手は鎌倉市立御成中卒の関東人



石橋咲人主将遊撃手は広範囲に守る俊足一番打者

新春のつどい案内

1月18日(土) 13時半
どなたでも参加できます

これまで、「各期幹事会」という名称から、参加対象が曖昧で分かり難いという声も多かったが、今年度より「新春のつどい」と名称を改めて冬の懇親会を開催します。夏の懇親会より規模は小さくなりますが、個々で、部活の先輩後輩で、経験前後の総会幹事期でと様々な繋がりや、情報交換や交流がじっくりとできる機会です。非会員の同期の方も是非お連れください。

【開催概要】

日時：2025年1月18日(土)
13時半〜16時(開場13時)
会場：日本プレスセンタービル10階ホール
会費：5千円(当日、受付にて)

くふうハヤテの監督来たる

赤堀監督に聞いてみよう!
105期・赤堀元之氏をお招きし、インタビュー形式でさまざまなお話を伺います。聞き手は、くふうハヤテの池田球団社長です。お楽しみに!

【赤堀元之氏プロフィール】

1970年、藤枝市出身。静岡2年時(1987年)、エースナンバーを付け夏の甲子園出場。1988年ドラフト4位で近鉄に入団し、16年プレー、パ・リーグ最優秀救援

投手5回受賞。指導歴は、オリックス、新潟アルビレックス、ヤクルト、中日など。昨年、くふうハヤテベンチチャーズ静岡の初代監督に就任。

必ず事前申込みを!

★申込みはWEBかFAX
Google フォーム、メールまたはFAXで受け付けます。

(1) Google フォームで申込み
左のQRコードより専用フォームに入力し送信してください。

新春のつどい
参加申込フォーム



(2) メール・FAX
左記を記述し送信してください。

- ① 期
- ② 氏名
- ③ 連絡先
(メールアドレス)

【メール】 shizukokanto@gmail.com
【FAX】 03-5217-0301

★締切日は設けません、なるべく早めの申込みにご協力をお願いします。

★これまでWEBにてイベント申込みをしていた際、関東同窓会からのお知らせを「希望する」としてくださった方に、ご案内の一斉メール送信をします。

★各期幹事(関東とりまとめ)の皆さまからも同期のネットワークにてお声がけをお願いします。

事務通信

前号会報 97号 12頁・一段目の各期幹事会報告で、文章の誤りがありました。

男女共学となり女性11名が入学。昭和28年3月に城内高校を卒業。4月に長谷へ校舎を移転し、9月に改名した静岡高校には通っていない。

68期の方々が卒業し、長谷校舎に移転したのは、静岡高校に改名した昭和27年ではなく、その前年の方からご指摘がありました。お詫びして訂正致します。

各OBの情報を X (Twitter) で発信

関東同窓会のイベントは勿論、ホームページ更新時や、OBの活躍の様子をSNSでジャンルを問わず発信しています。遠慮なく情報をお寄せください。

・ Save Iwate では、鎌倉建長寺にて若手芸能祭・神楽の舞台準備／観覧／宿泊を行います(8月)

・ 92期・清水篤氏主宰のシェイクスピア・ギャラリーにて「北蓮蔵と明治期に活躍した画家たち」を展覧しています(7月13日)

・ 82期・池田整氏の作品が国展に入選され新国立美術館に展示されます(5月4日)

・ 97期・窪田誠氏(慈恵医大教授)がNHK「今日の健康」に出演します(4月12日) etc.

年会費(維持費)

当会は、皆様からの年会費・会報掲載広告代でのご支援により運営されております。総会を初め会議や異業種交流会など、都内の会場をお借りしたり、なるべく参加しやすい懇親会費を設定しOB交流の場を、多くのボランティアで企画・実施をしています。

ひとりで多くの方のご理解をいただけますようよろしくお願いいたします。



ネット画面へアクセスし、お申し込みください。

住所変更フォーム

転居、姓名変更、新規入会、退会等、全てホームページの住所変更フォームでご連絡いただけます。ご夫婦で会報を一通におまとめしたい方もコメント欄にメッセージをいただければ対応させていただきます。



新規登録・住所変更
フォーム

広告募集

ひとコマ1万円(年間2万円・税込み)を、12月の掲載を確認後、一括で広告主様に順次、請求書を送らせていただいております。(支払口座はみずほ銀行です) 新規広告をご希望の方は広告画像データ(縦横比11名刺相当)をお送りください。ジャンル不問です。関東同窓会運営の収入源として大変助かっております。広告掲載のご連絡は、編集の都合上、会報発行の前々月末までにご連絡ください。

◆ホームページ閲覧状況(半年)
今年度上期(4月〜9月)
訪問者: 16232 (前回11812)
ページアクセス数: 250449 (前回110698)

◆会員現況 3383名(44名減)

◎右記オンライン決済は、一切の手数料が掛かりませんので、おススメです。

- 【決済方法】
- ・ クレジットカード
- ・ ネットバンキング(ペイジー)
- ・ コンビニ店頭払い
- ・ スマホ決済アプリ「支払秘書」

◎各銀行オンライン送金も歓迎致しますが、ゆうちょダイレクト、みずほダイレクトにご加入の方以外は、手数料がかかります。

★ゆうちょ銀行
〇二九(ゼロニキユウ)店
当座 0009969

★みずほ銀行
江戸川橋支店
普通 8078861

鈴 与 株 式 会 社

代表取締役会長 鈴木 与 平 (76期)
代表取締役社長 鈴木 健一郎 (110期)

〒424-8703 静岡市清水区入船町11-1
TEL 054 (354) 3015 (秘書室)
京浜支店 〒140-0013 東京都品川区南大井6-22-7
TEL 03 (6404) 2100

「何宗ですか?」「ハイ、皆之宗(みなのかみ)です!」

～いざという時、頼りになるかかりつけのお寺～

普 門 庵

臨済宗大徳寺派 住職 見城宗忠 (90期)

206-0801 東京都稲城市大丸 857
Tel : 042-378-1707 Fax:042-379-8647
URL : <http://www.fumon-an.jp>



建築・不動産活用などのご相談はどうぞ

Architects Office

一級建築士事務所

石川 雅英 (94期)
Masahide Ishikawa

108-0071 東京都港区白金台 3-2-16-201
T 03 - 5422 - 6525 HP www.rvstone.com
architectsoffice@cotton.ocn.ne.jp

伊豆の旬 やんも 葉

www.yanmo.co.jp

小林 秀男 (97期)

伊豆の旬 やんも <南青山> 東京都港区南青山5-5-25 T-PlaceビルB1
TEL:03-5466-0636 (日曜日のみ休)
伊豆の旬 やんも <丸の内> 東京都千代田区丸の内3-3-1 新東京ビルB1
TEL:03-5224-3322 (定休日なし)
住出し厨房 やんも <大手町> 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビルB1
TEL:03-3278-7272 (土日祝定休)

同窓会で人の輪を!!

野方重人法律事務所

弁護士 野方 重人 (77期)

〒101-0045 千代田区神田鍛冶町3-7-3
藪下ビル6F
(TEL) 03 (3251) 2348
(FAX) 03 (3257) 0820

著作権・許認可・遺言相続・船舶等のご相談はどうぞ!

行政書士・海事代理士山本数馬事務所

行政書士・海事代理士 山本 数馬 (103期)

〒221-0001
神奈川県横浜市神奈川区西寺尾 3-21-16
TEL&FAX: 045-633-1582
MAIL: ym-admscr@nifty.com



相続税・法人税・所得税などのご相談はどうぞ!

鳥巢修税理士事務所

税理士 鳥巢 修 (89期)
OSAMU TOSU

〒167-0041 東京都杉並区善福寺1-30-17
TEL 03(3396)3858 FAX 03(3396)3848
E-mail : tosu@mtj.biglobe.ne.jp

* 昼 2 時より夜11時まで診療 *

(医) 名泉会タカラ歯科診療所

代表 荻科 名雄 (87期)

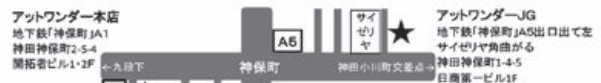
東横線 中目黒下車 徒歩 5分
TEL 0120-376-480
FAX 03-3710-8847
〒153-0051 目黒区上目黒 2-18-13

新店舗アットワンダーJG 開店!



見るだけで楽しい120坪の大型書店
失われていく記憶と、それを愛するすべての人に

文学/歴史/思想/哲学/映画・芸能/音楽/美術/サブカルチャー
アニメ/ゲーム/アメコミ/古書漫画/スポーツ/ポスター/紙物他



アットワンダー本店も通常営業
書籍 家財 雑貨等の買入れ、整理、片付けの
ご相談はお気軽に! wonder@atwonder.co.jp
アット@ワンダー 0120-154-727 店主: 鈴木宏 (91期)

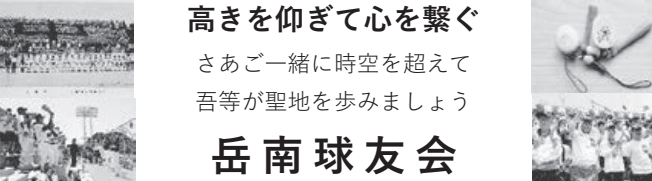
ブックカフェ二十世紀 (本店3F) にも
ぜひお立ち寄りください。
←イベント等詳細はホームページへ



T&K Partners
 弁護士 小杉祥代 (107期)
 T & K法律事務所
 102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5
 砂防会館本館2F
 T:03-6265-4738 F:03-6265-4681
 kosugi@tandkpartners.com

 **株式会社 WEMATSU**
 代表取締役社長 福田浩志 (97期)
 本社 〒171-0052 東京都豊島区南長崎 3-34-13
 TEL. 03-3953-1101 FAX. 03-3953-0557
 工場 〒335-0034 埼玉県戸田市笹目 8-12-2
 TEL. 048-449-8777 FAX. 048-449-8733

静岡のおでんとお酒と黒はんぺん
 **静岡おでんガッツ**
 ☎ 03-6273-8663
 🌐 <https://shizokaoden-guts.red/>
 🐦 @ShizokaOdenGuts
 📍 静岡おでんガッツ
 〒169-0075
 東京都新宿区高田馬場 2-19-8 阿部ビル1階
 代表 市川 徳二 (112期)

高きを仰ぎて心を繋ぐ
 さあ一緒に時空を超えて
 吾等が聖地を歩みましょう

岳南球友会
 会長：望月 一男 (70期 野球部)
 HP「岳南球友会」
 連絡窓口：080-5580-2958 (94期 松永)
 メール：k30.ska-1213m@ezweb.ne.jp

相談役 主筆
八牧 浩行
 Yamaki Hiroyuki

 株式会社 Record China
 東京都中野区本町3-30-4
 KDX中野坂上ビル1F
 090-2653-9469
 hiroyuki.yamaki@gmail.com

幼児教育に新しい風を
 **こぐま会**
 幼児教育実践研究所
 代表取締役 久野泰可 (83期) 取締役 久野淑子 (83期)
 本部 東京都渋谷区恵比寿西1-20-6 K&S恵比寿ビル7F
 TEL 03-3463-3815

Lighting for Your Safety

<https://www.koito.co.jp>
安全を光に託して
 人とクルマの安全は私たちの願い

 本社：東京都品川区北品川5丁目1番18号 TEL:03-3443-7111
 国内工場：静岡、榛原、相良、富士川、九州
 海外工場：USA、メキシコ、ブラジル、UK、チェコ、中国、台湾、
 タイ、インド、インドネシア、マレーシア
 小糸静高会 会長 大嶽隆司(74期)